

# 副腎皮質機能亢進症

## 「クッシング症候群」

執筆者・岡谷動物病院 佐々木厚さん

### はじめに

この病気は、体内のグルココルチコイド(「ステロイド」)の量が過剰になることで発病します。

### 症状

この病気は「ステロイドホルモン」異常の病気「慢性皮膚病」「脳尿・多食・腹部膨満・

### 診断

診断は、まず臨床症状の有無が最も重要で、100%の検査方法がないためです。最初にクッシングなのかどうかを調べるのに必要な検査は、「ACTH刺激検査」「低用量デキサメサゾン抑制試験」「尿コルチゾール・クレアチン比」があります。

### 治療

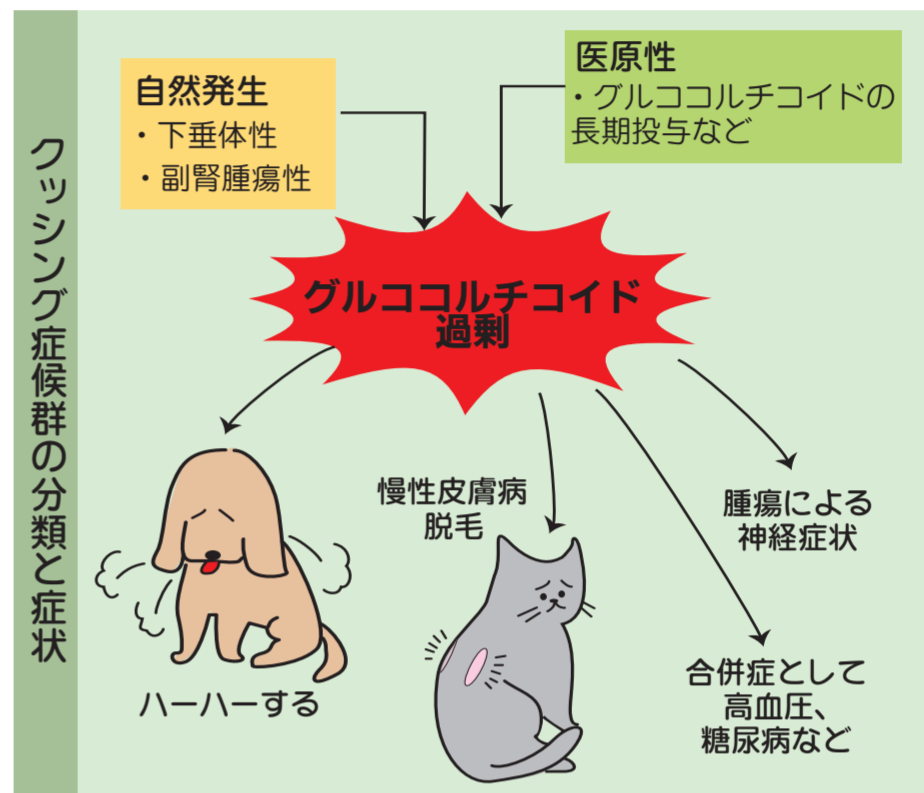
「下垂体性クッシング」..脳下垂体の巨大良性腫瘍が原因ですから、神経症状があれば



「放射線療法」「外科療法」が必要になります。神経症状がなければ、「トリロスタン」「ミトタン」による「内科療法」を行います。



「下垂体性クッシング」..脳下垂体の巨大良性腫瘍が原因ですから、神経症状があれば



筋肉の萎縮・左右対称の脱毛・皮膚が薄くなる・皮膚の石灰化・治らない皮膚病や脱毛・パンティング(ハーパー呼吸)の増大・呼吸困難・血栓症など

このコーナーへのご意見、ご感想をお寄せ下さい！  
ご意見、ご感想、岡谷動物病院の佐々木先生に聞いてみたいことなどをお寄せ下さい。住所、名前、電話番号を明記し、郵送(〒394-0028岡谷市本町3の8の30)、ファクス(0266-22-4444)、Eメール(mail@shimin.co.jp)のいずれかで、市民新聞グループ編集局「見る」係へお送りください。  
バックナンバーは岡谷動物病院ホームページでご覧いただけます。